

延岡市はこんなに変わっている！

～なんと、若い世代の人口が増えている！～



読谷山(よみやま)洋司

略歴

昭和39年生まれ、宮崎県延岡市出身
昭和61年・・・東京大学経済学部卒業
同年・・・自治省（現在の総務省）入省
以後、同省財政局主査、大蔵省銀行局課長補佐、総務省
大臣官房企画官、国連コンサルタント等を歴任
平成17年・・・愛媛県総務部長
平成20年・・・内閣参事官
平成22年・・・岡山市副市長
平成24年・・・退官し延岡に帰郷、子育て支援会社を
設立・経営、長崎県立大学教授、企業
コンサルタントを兼務
平成30年・・・延岡市長就任

3年で延岡はこんなに変わった(例) (詳しくは次ページ以降を)

- 令和元年以降25～39歳の人口増加中、IT企業誘致増加
- 新たに短期大学が延岡駅前に開校
- 年中無休の「なんでも総合相談センター」オープン
- 子ども医療費中学3年生まで月350円でOK
- 小児科病院増加。ゼロだった病児保育が2ヶ所に・1ヶ所だった病後児保育が2ヶ所に。
- 「隠れ待機児童」解消に向け保育園定員が200人増
- 小中学校の普通教室エアコン整備0%が100%に。
- 小中学校1人当たりパソコン台数県内最下位がトップに・1人1台実現
- 公園遊具増え、キッズランドやドッグランオープン。アウト・オブ・キッザニア本年延岡初上陸
- 水道料とごみ袋は値下げ、介護保険料と国民健康保険料値上げせず
- 循環バスや乗り合いタクシール線が増え、料金割引も拡大
- ふるさと納税6千万円台から6億円超に大幅増（地元の返礼品売上も大幅増）
- 牛の飼育頭数が3年連続増。農山漁村版ハローワーク設立。延岡の魚海外輸出増
- 西階地区に防災施設兼屋内練習場整備・野球場再整備開始、県体育館（2棟）整備開始

延岡はこんなに変わった（その1）

○市民所得アップへの取組み(25～39歳の人口が令和元年度以降増え続けている！)

(1)雇用・産業

- ⇒起業・創業支援策を大幅に強化
- ⇒クレアパーク工業団地**完売**、新団地整備中、東京のIT企業も**進出**
- ⇒コワーキングスペースやリゾート地を拠点に**DX&ワーケーション推進**
- ⇒**厚労省モデル事業**（全国14地域選定）の人材育成事業実施中
- ⇒高千穂町や宮崎市等から新たな人の流れをつくり**観光客増、国文祭で更に誘客強化**
- ⇒外貨を稼ぐ**延岡経済リンク機構R3創設**へ。スタートアップ事業も成果
- ⇒UIJターン人材、副業兼業も視野に**事業承継等支援センターR元開設**

(2)安い経費で暮らせるまちに

- ⇒子ども医療費助成拡大（**今年4月から中3まで**対象に（診察時間内））
- ⇒新たなバスネットワーク（**今年4エリア新循環バス運行+東大と連携+4地区連携等**）・料金割引拡大
- ⇒新電力会社設立検討（**本年度中の設立を目指す**）
- ⇒既に**水道料金とごみ袋を値下げ・介護保険料と国民健康保険料は値上げせず**
- ⇒中小企業の生産性向上のための「**固定資産税3年間ゼロ政策**」実施中

延岡はこんなに変わった（その2）

○駅前がおもしろくなってきた！

(1)雇用・産業の拠点としての駅前

- ①旭化成(株)、IT企業、金融機関、CATV、商工会議所などが進出
- ②コワーキングスペースも整備・**延岡のデジタル化拠点**に
- ③周辺空き店舗でのチャレンジショップ開設支援策強化・高校生のチャレンジショップも応援

(2)学びの拠点としての駅前

短期大学が昨年10月空き店舗にオープン（県北のみならず大分県南等からも通学）

(3)交通の拠点としての駅前

- ①シェアサイクルPIPPAスタート
(西階～県体育館～内藤・野口記念館～市役所～商店街・延岡駅の周遊コース化)
(旧後藤邸の木材等を活用し城山周辺に**古民家風**カフェor休憩所整備検討)
- ②新たな循環バスも含め交通ネットワーク拡充へ

延岡はこんなに変わった（その3）

○第一次産業を市政の柱に

（1）農業・畜産

- ⇒牛の飼育頭数が平成30年以降**3年連続増加**（飼料用イネの生産増にも）
- ⇒農業株式会社の延岡進出、新規就業者支援、新たなほ場整備、有害鳥獣対策強化
- ⇒「所得アップ・ゴー・ゴー・テン」実行へ、農山漁村版ハローワーク・ECサイトスタート

（2）水産

- ⇒延岡での現地商談会の開催、続々と**県外大都市デビュー**、メヒカリ等台湾**輸出**、新規就業者支援

（3）林業

- ⇒6次産業化推進、市産材を公共施設に積極活用（内藤記念館等）、新規就業者支援

○東九州クロスポイント構想も着実に進捗

- ⇒**新たな産業団地整備**、九州中央道の整備進む、日向・細島港での新たなふ頭整備開始と連携
- ⇒南部地域、ユネスコエコパーク地域の魅力アップ、植物園魅力アップ

○アスリートタウン再構築

- ⇒県体育館と市体育館の新たな整備（**2棟合築的整備**）
- ⇒西階地区で**防災兼スポーツ用室内施設**の整備、野球場整備にも着手、国体も見据えた対応
- ⇒誘致キャンプ数も増加

延岡はこんなに変わった（その4）

○市民の暮らしを守る

- ⇒ 年中無休の「なんでも総合相談センター」フル稼働中
- ⇒ ポイント制本格スタート（健康・ボランティア・キャッシュレス・バス利用促進）
- ⇒ 市庁舎1Fの就労支援アンテナショップ好評、2Fのレストランも障がい者雇用重視、
- ⇒ 「親亡き後の暮らし支援策」検討スタート、自宅で首都圏の仕事をする在宅就労も促進
- ⇒ 基幹相談支援センター市内に3ヶ所開設
- ⇒ 全国で2番目・広域での「権利擁護センター」（成年後見サポートセンター）開設
- ⇒ 介護予防・健康づくり支援も強化・・・医療費や介護認定率が下がっている。
- ⇒ 認知症カフェ（市内3ヶ所）整備・運営支援
- ⇒ パートナーシップ宣誓制度スタート、多様性の尊重

○次世代を育てる

- ⇒ 保育園定員200名以上増、病児保育0⇒2、病後児保育1⇒2、放課後児童クラブ全主要校カバー
- ⇒ 県北の悲願・医療的ケア児ショートステイオープン
- ⇒ 新たな教育政策推進～今年度「延岡こども未来創造機構」設立し知力・体力・人間力を育む（STEM教育、イングリッシュキャンプ、アウトドア体験、プレーパークなど）
- ⇒ キッズランド整備、今年度「アウト・オブ・キッザニア」開催
- ⇒ エアコン普通教室整備100%、PC児童・生徒1人1台整備+AI、新教科「論コミ」スタートなど

延岡はこんなに変わった（その5）

○防災対策の強化

- ⇒屋外放送施設は希望地域**全て**に整備支援済
- ⇒**第二次津波避難施設整備**に着手
- ⇒防災ハンドブック、ハザードマップの全世帯配布
- ⇒「地域主体の災害対応力強化補助事業」を創設、「**逃げ遅れゼロ**」対策に着手
- ⇒**消防団支援強化**（報酬・補助金アップ等）

○中山間地や離島の素晴らしさを大切にした地域密着型行政の展開

- ⇒三北基盤整備事業費3年間で**3.6倍、8割**は現場に決裁権限
- ⇒北方・北川でのユネスコエコパーク拠点整備
- ⇒北方町で市内唯一の貨客混載型交通
- ⇒巻き網用製氷施設整備支援、北浦町独自観光ツアー造成、避難所整備
- ⇒北川町で延岡市として初の堤防整備、道の駅の防災拠点化
- ⇒島野浦の無料救急搬送・全戸受信機整備・新たな交流施設整備支援・新学校整備
- ⇒**地域担当職員制度**の展開

延岡はこんなに変わった（その6）

○環境対策を強化

- ⇒ESD（持続可能な開発のための教育）の拠点・ユネスコスクール設置
- ⇒浄化槽整備に対する補助強化
- ⇒脱炭素社会づくりに向けた取組み
 - ～ペーパーレス推進、脱マイカー強力に推進、シェアサイクル導入、新電力会社設立検討

○市民目線の行政改革もフル稼働

- ⇒100人市民会議、情報公開・市民参加促進のための新たな条例成立、地域担当職員配置
- ⇒移動市役所や出前市長室も曜日を問わず相次ぎ開催、R3から若者と一緒にまちづくり検討開始
- ⇒来庁不要の行政手続の増、「おくやみコーナー」設置

○新たな財源確保・行財政改革

- ⇒新電力会社の設立検討、ふるさと納税大幅拡大（H29 6千万円台⇒現在6億円超）
- ⇒国・県の財源フル活用（モデル事業指定補助金、有利な地方債、コロナ交付金なども有効活用）
- ⇒民間委託推進、債務残高減少（52億円減）、職員削減
- ⇒オープンカウンターや入札対象拡大などで地元事業者参入機会拡大＆経費削減

○官民連携の先進自治体として多くの実証事業等を展開中

- ⇒シェアサイクル、リモート相談、くらしのwebガイド、事業承継、「中食」、東大・慶應大など

延岡独自のコロナ対策（例）

○感染予防対策

市独自でPCR検査実施、データ活用等で認知症・骨粗しょう症・脳梗塞・心筋梗塞等予防
リモート相談体制構築、スマートフォン決済サービス拡充

○緊急経済対策

市独自の事業所向け緊急給付金

緊急雇用創出事業（200人規模）

飲食店＆タクシー支援策

税の減免、猶予

30%のプレミアム応援キャンペーン＆商品・サービス券（電子版も。近く第2弾も。）

○くらし支援・学び支援

オンライン学習

放課後児童クラブやファミリーサポートセンターでの支援拡充

緊急教育資金融資事業（無利子・無担保）

住宅確保給付金等

※ 第1次～13次にわたる対策は総額200億円